

## 第6学年2組音楽科指導案

日時 2022年9月29日（木）

場所 音楽室

児童 千歳市泉沢小学校

6年2組22名

指導者 渡辺 亜紀子

## 1. 題材名 音のスケッチ

動機をもとに 音楽をつくろう

## 2. 題材の目標

- (1) 動機の変化やフレーズのつなげ方について、それらを生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくったり、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽を作ったりする技能を身に付ける。
- (2) フレーズ、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 動機をもととして音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、音楽に対する感性を育む。

## 3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>○動機の変化やフレーズのつなげ方について、それらを生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。</p> <p>○リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくったり、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けている。</p>	<p>○フレーズ、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>○動機の変化のさせ方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。</p>

4. 指導計画と評価計画（4時間扱い）

	指導内容	観点別具体の評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	<p>○動機について知る。 ・「運命」と結び付けて考える。</p> <p>○児童が知っている曲の中から、動機を交流する。</p> <p>○動機を全員で演奏する。</p>	<p>動機の変化やフレーズのつなげ方について、それらを生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。(演奏の聴取)</p>		
2	<p>○動機を変化させて楽しむ。 ・変化のさせ方を確認する。 「かえるのうた」でリレー奏をする。</p>	<p>リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくったり、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けている。(演奏の聴取)</p>		
3	<p>○3人グループで動機を変化させて音楽をつくる。 ・理想のチャイムを作ろう。 ・つくりたいイメージを相談する。 ・つくりたいイメージに合わせて動機を変化させ、イメージに合う楽器を考える。 ・グループで表現の工夫、演奏の仕方を工夫する。</p> <p>○中間発表をする。</p>		<p>フレーズ、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。  (演奏の聴取・発言の内容)</p>	<p>動機の変化のさせ方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。</p>
4	<p>○前回つくった音楽を微調整する。 ・中間発表のアドバイスや他の</p>			

	<p>グループの工夫を参考にして、もう一度直す。</p> <p>○交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでつくった音楽を発表し、工夫点等を交流する。</li> </ul>			
--	---	--	--	--

5. 教材名 「動機をもとに音楽をつくろう」

#### 6. 教材観

曲を特徴づけている短い音型（音のパターン）＝「動機」に注目し、その動機を変化させながら音楽を構成していく音楽づくりの活動である。「Sound of Music」や「運命」のように、動機を繰り返しながら構成されている曲を参考にしながら、同じ旋律を繰り返すだけでも変化をさせることで音楽ができることの面白さに気づき、自分たちなりの表現を楽しみながら活動が進められるようにしたい。

#### 7. 共通事項との関わり

本教材では、共通事項の中から、フレーズ・反復・変化について重点的に取り扱いたい。

#### 8. 児童の実態

持ち上がりのクラスである。昨年の学芸発表会では、楽譜が読めない子が多いながらも、子ども達の希望から、器楽を3曲挑戦した。演奏できるまで自主的に練習したり、お互い聴き合って演奏にアドバイスをしたりと前向きな子が多い。また、みんなで音楽をつくりあげる喜びを感じたようである。

一方、個別指導が必要な児童が5～6名おり、一斉指導が通りにくいところがある。今回は意見を出し合い、お互いの良さを生かしながら音楽を作りができるように2～3人で行うよう設定をした。昨年度までは、コロナ禍で制限がある中、積極的に取り組むことができなかつたりコーダーや歌なども、感染状況を見て、4月から徐々に取り組んできた。6年生としては、まだ十分とは言えないが、音楽に苦手意識を持たないよう様々な手段を使って、楽しみながら音楽づくりをしてほしいと考える。また、タブレットを使ったり、ワークシートを使ったりなど、自分に合ったものを選んだり試したりしながら、様々な角度から音楽づくりにアプローチしてほしいと考える。

9. 本時の目標

- ・動機を変化させながら、イメージに合った音楽をつくるにあたって、自分なりの考えを持つことができる。
- ・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むことができる。

10. 本時の展開（3／4）

	学習内容	教師の関わりと評価規準・具体的評価方法 ☆共通事項を知覚・感受するための手立て ※指導の留意点 △目標に達していない児童への支援 □具体的評価規準【】評価方法
導入	<p>1. 前時のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動機の確認</li> <li>・動機アレンジクイズをする。</li> </ul> <p>2. 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>動機をもとに、イメージをふくらませて、理想のチャイムをつくろう。</p> </div>	<p>☆前回子ども達の考えた動機、一般的な動機を提示する。</p> <p>☆クイズから、動機の変化のさせ方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを変える ・音の長さを変える</li> <li>・音の高さを変える</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・逆方向に進行させる・音型の一部を取り出す</li> <li>・繰り返す</li> </ul> <p>☆最初と最後は動機を使い、中の4×2小節を考える。</p>
展開	<p>3. 3人1組になり、どのようなイメージの音楽にするかを話し合う。</p> <p>4. どのように動機を変化させるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記譜はジャムボードやソングメーカーを使い「5線譜・図形・階名で書く」などから、自由に選ぶ。</li> <li>・バーチャルピアノやリコーダーなど、演奏したり、ソングメーカーで音を出したりしながらつくる。</li> </ul>	<p>☆一日を表すチャイム・・・朝、ゆったり ⇒遅く・弱く 昼、元気 ⇒倍速で反復 等</p> <p>☆給食前のチャイム・・・楽しみ ⇒速く・音色は木琴 等</p> <p>☆黒板に変化のパターンを貼っておく。 △どのように作りたいかイメージを聞き、サポートをする。</p> <p>※音を出しながら、変化を楽しめるようする。 □動機の変化に興味を持ち、楽しみながら主体的、協働的に学習に取り組んでいるか。</p>

	<p>5. 旋律やイメージに合った楽器や奏法を考える。</p> <p>6. 中間発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作っている途中の曲を発表する。</li> <li>・ジャムボードに感想・意見を書き込む。</li> </ul>	<p>【活動の様子】【ワークシートの様子】</p> <p>□動機を変化させながら、イメージに合った音楽をつくるにあたって、自分なりの考えを持つことができたか。</p> <p>【演奏の聴取】【ワークシートの様子】</p>
ま と め	<p>5. 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は子ども達からのアドバイスや他の班の演奏から学んだことを生かし、曲を微調整して完成させることを伝える。</li> </ul>

#### 11. 本時の評価

- ・動機を変化させながら、イメージに合った音楽をつくるにあたって、自分なりの考えを持つことができる。
- ・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むことができる。

## 【事後研の報告】

### ◇成果◇

児童の実態をしっかりと分析し、単元全体を見通した指導計画と評価計画をされていたことが、単元の目標を達成することに確実につながっていた。

### ①思考力・判断力・表現力を高める手立ての工夫

- ・( )のチャイムと題名を考えることで、日常の学校生活を想起しながら具体的なイメージをもたせることができた。様々なチャイムを試行錯誤しながら作る際に、題名(イメージしたこと)を柱とした創作活動ができていた。
- ・動機の変化を考える際に、考えるためのツール(バーチャルピアノ、ソングメーカー、ジャムボード、ワークシートへの記譜など)を自ら選択することができた。そのため、一人一人が演奏技能の差に困惑することなく、自分に合った方法で考え、話し合いに参加することができていたことは、個別最適な学びにつながる大きな成果だと感じた。
- ・活動の説明は、電子黒板にパワーポイントを使って行った。簡潔かつ分かりやすい説明となった。さらに、その内容を Googleclassroom に入れておくことで、授業者を頼ることなく、「次に何をするのか」「目的がぶれていないか」を必要に応じて児童自身が確認でき、自分たちの判断で音楽づくりから発表の練習までを進めることができていた。
- ・ジャムボードの共同編集機能を使うことで、常にグループ内で互いの考えを共有しながら活動していた。そのため、一人の主張だけで決まってしまう、話し合うことなく一人一人が活動に没頭して意見がまとまらないなど、グループ活動で想定される課題をクリアし、グループで話し合った理想のチャイムをメンバーみんなで思考錯誤する姿があった。
- ・児童の実態や授業の流れを分析した的確な時間配分だったため、活動時間を十分に確保できていた。そのため、「イメージを共有する→考えをもとに演奏してみる→意見交流→出した意見をもとに再度演奏を試す」という流れを繰り返し行うことができ、理想のチャイムに近づけるために思考錯誤する姿があった。
- ・ホール、音楽室、理科室など、普段の授業で使用している活動スペースと楽器が確保されていたため、音の響きを試したり、動機の変化を聴き合いながら相談したりできる学習環境となっていた。どの子も楽器に触れながら音楽づくりを進めることができ、「このチャイムなら鉄琴かな。」と口ずさむ姿もあった。
- ・中間発表では、「どこがよかったか。」「どうしたら良くなるか。」などを、子ども同士でアドバイスする場となっていた。



## ②児童が主体的・協働的に学ぶための手立ての工夫

- ・音楽の技能面だけではなく、学級全体のつながりや一人一人の長所や個性に目を向け、児童の実態を十分に考慮したグループ編成を行うことで、全員が主体的に音楽づくりに参加していた。
- ・日常的に、長所を活かし苦手な部分を補い合う学級風土が構築されているため、互いの意見を尊重しつつも、互いで足りない部分を補い合うことが、自分の役割を達成できたという満足感にもつながっていた。
- ・導入で「動機アレンジクイズ」を行い、「動機を変化させる」という既習事項を想起させていた。「運命」の転調のような児童にとって分かりやすい変化から、「かえるの合唱」の反転のように、一瞬「あれ？なんだろう」と思うものも用意されており、短時間で楽しみながら「動機の変化のさせ方」を振り返ることができ、「チャイムの動機を変化させる」という本時の課題へ向かう意欲を高める手段となっていた。
- ・タブレット活用が日常化されているため、音楽科の授業においても操作に困って活動に支障が出るという場面は、ほとんど見られなかった。タブレットを譜面のように使ったり、タブレットで作った音を確認しながら実際に楽器で音を響かせたりと、効果的に活用できていた。



## ③児童の実態に合わせた条件付け

- ・記譜が苦手な児童や音階の読みに時間がかかる児童が複数いるため、タブレットで音楽ソフトやGoogleの機能を使った。しかし、「発表は楽器を使う」という条件を付けたことで、音色や音の響きを大切にしたい理想のチャイムを考えていた。

以上の成果から、単元の目標を達成できたのではないかと感じた。また、研究主題の副題にある「互いに学び合い、高め合う多様な学習活動の在り方」に対する提案性のある授業であったと言える。

### ◆授業者から◆

- ・今回は、児童の実態も踏まえ、児童がタブレット操作に慣れていたので効果的な活用ができた。しかし、授業準備や児童が新しい使い方に慣れるまでの時間などを考慮すると、より効果的かつ授業者も児童も手軽に使える音楽ソフトの導入を模索していく必要がある。
- ・音楽的な用語や演奏技能も含めて、5年生までの既習事項を思い出したり、これまで培ってきたはずの技能を発揮したりすることに難しさを感じる場面が見受けられた。音楽科でも、より系統性を考えた実践を積み上げていくことで、音楽への苦手意識の緩和や、既習事項を活かした授業へとつなげていきたい。

